

# 審議会等の会議結果報告書

		課所名	環境課
会議名	令和5年度 第1回諏訪市環境審議会		
開催日時	令和5年7月28日(金) 13時30分から15時まで		
出席者	《委員》 宮原 裕一委員、佐藤 よし江委員、牧野 透太委員、笠原 雅男委員、宮嶋 良太委員、 藤森 聡一委員、河西 俊三委員、伊東 克幸委員、小林 佐敏委員、藤森 恵吉委員、 小池 香奈恵委員、大館 道彦委員、田邊 皇子委員、小泉 幸善委員 《諏訪市》 金子諏訪市長、金子市民環境部長、中澤環境課長、小松環境保全係長、 茅野環境保全係主査  (傍聴者3名※報道含む)		
資料	次第、資料1、資料2、資料3-1、3-2		
協議議題(内容)及び会議結果(要旨)			
1 開会(進行:中澤環境保全係長)			
2 市長挨拶(金子諏訪市長)			
<ul style="list-style-type: none"><li>・令和5年度第1回目の諏訪市環境審議会にご出席いただきありがとうございます。</li><li>・環境審議会の皆様にはこれまでも、諏訪市の魅力の一つである環境の価値を守り、高めていくための取組にご協力いただいていた。</li><li>・昨年度から第三次諏訪市環境基本計画の計画期間がスタートした。この計画は、環境審議会に諮問し、慎重審議いただき策定した。ご尽力いただいた委員の皆様にご改めて感謝申し上げます。</li><li>・環境基本計画に基づき、様々な取組を進めているが、特にゼロカーボンに関する取組は世界共通の課題。近年、多発する集中豪雨は地球温暖化による異常気象が原因とされている。住民の安心できる生活を守るためにも取組は急務。</li><li>・世界的に環境への関心が高まっており、今後も選ばれ続ける地域となるためには、脱炭素をはじめとする環境配慮が必須である。高原湖畔都市である諏訪市では、産業、観光、暮らし、いずれの分野も恵まれた環境により成り立っている。この貴重な環境を次の世代に残していくためにも、関係者が力をあわせて取り組む必要がある。</li><li>・令和4年3月に宣言したゼロカーボンシティ宣言は、全ての関係者が力を合わせて取り組む決意を表明するもの。環境審議会委員の皆様とも、力をあわせた取組を進めていきたい。</li><li>・本日は、環境推進会議で実施した令和4年度の取組を踏まえた環境基本計画の進行管理の状況について確認をいただく。皆様には、諏訪市の取組について把握いただき、今後の検討につながる機会としていただきたい。</li><li>・本日はよろしく願いいたします。</li></ul>			

### 3 委嘱状交付

※新任の藤森 聡一委員、藤森 恵吉委員、小池 香奈恵委員、田邊 皇子委員に市長から委嘱状交付

### 4 説明事項（議事進行：宮原会長）

#### （1）本日の会議について **資料1**

※事務局から資料1及びスクリーンに投影した補足資料を基に、環境基本計画の概要、環境審議会の任務及び本日の会議概要について説明

【質問・意見等】

なし

### 5 報告事項

#### （1）令和4年度諏訪市環境推進会議の開催状況について **資料2、資料3-1~2**

##### ①第二次諏訪市環境基本計画における市施策に対する環境推進会議委員意見への対応について

※事務局から令和4年度開催の審議会で確認した第二次諏訪市環境基本計画における市施策に対する環境推進会議委員意見に対して、各担当課からの回答を加えた内容について資料2の配布により説明

【質問・意見等】

なし

##### ②第三次諏訪市環境基本計画の進行管理

※事務局から資料3-1、資料3-2及びスクリーン投影補足資料を基に第三次諏訪市環境基本計画の進行状況、特徴的な取組、環境推進会議委員からの主な意見及びそれに対する担当課回答について報告

【質問・意見等】

○KPIの中で、「再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO<sub>2</sub>削減量」の達成率が104.5%という実績。再エネ買取価格が大きく下落しているため、地目変更をして太陽光発電パネルを設置するという案件が1件も出ていない状況だが、実際にはかなり増加しているということか。

→KPIについては、総合計画策定時に設定した目標値の達成状況。実際には若干増加はしている。

○営農型太陽光発電の話が農業委員会に来ている。以前に9,500平米位の規模で申請があったが、営農計画が思わしくない発電ありきのものであったため諏訪市農業委員会では不許可にした。その件について、行政不服審査がされている。

→営農型太陽光発電については、以前よりご心配されているとの話はお聞きしている。全国的にも上手くいっているケースとそうでないケースは様々。再エネの導入は進めていきたいが、しっかりと営農計画があり、再エネと農業の両立ができることが重要である旨は認識している。

○長野県77市町村中、16市町村でまだ太陽光発電設備設置に関連する条例ができていないとの話を聞いた。一方長野県では、条例制定に向けた取組を進めている。

→長野県からも営農型等の太陽光発電に関連する条例策定に向けた委員会を開催している旨及びその内容については随時共有されている。

- 農地法が改正され、令和5年4月1日から下限面積が撤廃された。何年か前に、空き家付きの農地は下限面積を減らしてくれないかという要望もあったが今回法律が変わった。農地を買うにはその他にも条件はあるが、荒廃地が増えているので、下限面積を撤廃すれば家庭菜園等様々な形で農業をやる人が増えるのではないかという期待がある。
- これだけ多くの取組を一気に理解するのは難しい。これをどのように市民の皆さんに発信していくのかかなり難しいと思う。計画を見直していくことに関しては評価したいと思うが、実行するのは難しい。この取組はよくなかった、この取組は重点的にやらなくてはいけない、これはやめてもいいということが一目でわかるようなものや、他市町村と比べて諏訪市は何が秀でていて何が劣っているといったことがわかるような方法を講じたほうがいい。
- 特に市民の方にどう伝えていくかということが非常に重要であると思う。例えば広報に計画をすべて載せたとしても、全てを読み込んでくれるかということとそうではない。市民に取組を広げるには難しくなく、興味を持ってもらえるところから説明していく必要がある。広報、Youtube、ロビー展示等様々な取組を工夫して実施しているが、市民に対するハードルをなるべく低くした方法で実施していきたい。
- 今回、KPIとして設定されているものの中には、実は下がったほうがいいというものもある。枯木損木の伐倒処理件数は、たくさん処理したということで評価をされているが、将来的には下がっていったほうが環境によい状態と考えられる。今は、多くの活動をすることに焦点を当て評価をしていくべきだと思うが、将来的に上がっていくことだけがよいということではないというのを考えていただければ。
- 実際に数値を下げるのが達成条件となるKPIも存在する。計画を策定する時期の取組段階にもよるが、次回計画策定時にも考えていきたい。
- 県の太陽光条例は9月の議会に上程する予定になっている。
- P17の諏訪湖創生ビジョンに関連する話で、諏訪湖創生ビジョン推進会議の事務局は県が担っている。諏訪湖に限って言うと観光面も含めてごみが一番の問題だと個人的にも思っている。そこは、市民も含めて取り組める入口になる。今後の課題や取組の方向性に、ごみ調査に子どもたちも巻き込んで調査結果を外部に発信する企画を計画中とあるが、これはこれまで実施していた調査とは別の取組か。これまでのごみ調査の経緯もあることから力を合わせてやっていきたいと思っている。
- 基本的には県と一緒にやっていきたいと思っている。今回子どもを巻き込んでという内容は市内の中学校と連携して来月実施する予定の内容。これまで実施した内容を踏まえて行う単発の取組となる。諏訪湖に関する取組は独自に市で進めていくのではなく、県と連携してやっていきたいと考えている。
- ごみ調査について2か所実施しているが、1か所について中学生に参加いただくこともできると思った。また検討してほしい。
- 一斉清掃の説明があったが、諏訪湖アダプトプログラム、上川アダプトプログラムに登録されている企業がある。そちらの企業をターゲットに調整するのもいいのではないかと考えた。
- P39のサンデーリサイクルの実施について、開始当初から方法等は変わってきている。開始当初は私の所属団体でも協力していたが、市民に浸透度がないので利便性がないのではないかという意見があった。今後もあり方を考えていくということだが、市民を巻き込んでどこでいつどのようにやればいいのかという話し合いをして作り上げていったほうが浸透度も高くなりいいのではないかと思う。これについては、私の所属している団体で意見として出ている。

- 今年については変更した方法で実施している。実際に利用されるのは市民であることから、どのように意見を取り入れられるか含め検討していきたい。
- P42にある保育園児向けの環境紙芝居については高く評価できる。しかしながら、塗り絵を配り家でやってもらうことも狙っているとのことだが、私は子どもたちから1回も見せてもらったことがない。見てもらう効果はあると思うが、おそらく半数近くの家庭の方は見たことがないのではないかと思う。共働き世帯も多く、保護者も時間がない中で子どものこと、自分のこと、様々なことをこなしている。子どもと一緒に見て、自分の知っている知識を教えてあげたいという気持ちは重々あるが時間が足りない。園便りというものがあり、メールでデータをいただいたり、紙媒体でいただいたりして目を通す機会が非常に多い。同じような環境便りのようなものを配布すれば各家庭で目を通す機会が多いと思う。
- 家庭において子どもの全てを対応するのは難しいとは思っている。とはいえ家庭への周知や浸透は重要。園便りのようなものであれば見てもらえるという意見は貴重な意見。現場での資料配布の負荷含めて関係課との協議は必要だが参考にさせていただく。
- ごみは諏訪湖に流入してくる。これについて湖週の市町村は努力しているように感じているが、ごみは上流からも流れてくる。広域全体で対策をする必要があると思っているが、広域での連携はどうなっているのか。
- 諏訪湖は面積の40倍の流域面積を持っている。急傾斜地が多いので、大雨が降ると一気に、その40倍もの面積に浮遊するごみが流れ込んでくる。当然それは茅野市、富士見町、原村という諏訪湖周以外からも入ってきている。これは大きな問題だと思っており、諏訪湖創生ビジョン推進会議の中でも取り上げている。ワーキンググループもごみのない諏訪湖ということで、全6市町村に呼びかけ実施している。諏訪湖周浄化対策協議会の事務局が地域を全体的に見ることのできる広域連合となっている。この協議会も諏訪湖創生ビジョン推進会議に参加いただいている。協力して進めていきたいと考えている。
- 大雨が降ると下水道が流れないという問題が出てくる。これについても広域で負担をするということにならないか。
- 諏訪湖創生ビジョンの中には、水質保全対策が盛り込まれている。そこには流域市町村での対策というものもある。諏訪湖創生ビジョンには6市町村全て参画されているので、そういった情報は共有しているが、再度話題に出し全体で取り組んでいきたい。
- 諏訪の流域下水道はかなり古く不明水等の問題もある。
- 下水道に関しては、県の施設で処理している。地球温暖化の影響と言われているが、これまでのインフラで処理できないほどの集中豪雨に見舞われている。現状では、大雨により施設での処理が困難な状況において、住民の方々に下水道の使用を抑えていただくというお願いをしているところ。
- 不明水が流入して流域にお住いの皆様にご迷惑をお掛けするというような状況が続いている。諏訪市水道局としても、不明水がどこから流入してくるのかという調査を始めている。すぐに結論が出るかは不明だが対策のため動いている。

## 6 その他

## 7 閉会